

いいもの成らせるさくらんぼ便り

Vol. 6 疲れた樹に栄養と水分を！病害虫防除も忘れずに！

収穫後で疲労はピーク。雨よけ資材の撤去時の農作業事故に注意！

【来年のために花芽を充実させましょう！】

- ①速やかに雨除け資材を撤去し、土壤水分を確保する
- ②礼肥を施用し、樹体を回復させる
- ③適期に防除を行い、葉を健全に保つ



すでに花芽分化は始まっています！

1 礼肥の施用

基準

年間施肥量：窒素成分で 15 kg/10a 程度
 礼肥の割合：年間施肥量の 20～50% (3.0～7.5 kg/10a)

- ◎着果量が多かった園地や樹では、礼肥の割合を多めにする
- ◎凍霜害で結実が少なく樹勢が旺勢になっている樹では、施肥を控えめに！

生育状況	礼肥のやり方
<ul style="list-style-type: none"> ・樹勢が弱い(新梢短い) ・着果量が多かった ・地力が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・礼肥の割合を増やす (年間施肥量の50～100%) ※着果が多かった「紅秀峰」は特に増やす ・できるだけ早く施用する
<ul style="list-style-type: none"> ・適正樹勢 	<ul style="list-style-type: none"> ・基準の割合で施用する (年間施肥量の20～50%)
<ul style="list-style-type: none"> ・樹勢が強い(新梢長い) ・着果量が少なかった ・地力が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間施肥量を減らす ・礼肥の割合を減らす (年間施肥量の0～20%) ・新梢の伸びが止まってから施用する

※砂質、作土が浅く礫が多い等、肥料持ちが悪い園地は7月と8月に分けて施用

※礼肥の割合が50%以上の場合、緩効性肥料を組みあわせる(例:速効性50%+緩効性50%)

【速やかに効かせるために】

- ・礼肥は速効性肥料を中心に施用する
- ・施肥後に降雨がなければ灌水 (20～30t/10a)



2 今後の防除 (収穫後も適期に防除を行う！)

(1) 褐色せん孔病

- ・収穫直後から2週間間隔で、3回以上防除を行う

(2) カイガラムシ類 (防除時期：8月中旬頃)

- ・薬液がかかりやすくなるよう発生部分は夏季せん定後に防除

(3) ハダニ類 (すでに発生しています)

- ・丁寧にムラなく散布

※例年多い部分は、手散布などで重点的に防除